

## 「堀川 1000 人調査隊 2005」 成果報告

～市民の視線による堀川浄化実験の検証と評価～

名古屋堀川ライオンズクラブ

堀川 1000 人調査隊 2005 事務局

名古屋市と名古屋堀川ライオンズクラブが共催で実施した「堀川 1000 人調査隊 2005」における市民の視線による浄化実験の調査結果概要を下記の通りご報告します。

### 1. 「堀川 1000 人調査隊 2005」結成の経緯

2004年2月～5月に市民217隊2007名が参加して行われた第1次堀川1000人調査隊の活動の結果、堀川には次のような解決しなければならない問題があることが指摘されました。

- 1) 下水の処理水も含め、堀川の水源となる水質を改善しなければならないこと
- 2) 今たまっているヘドロの除去を促進しなければならないこと
- 3) 一部の心ない市民のポイ捨てゴミや不法投棄をなくさなければいけないこと

そして成果発表会では、行政や市民がそれぞれの立場でできることをしていこうという意味を確認しました。

その結果を受けて2005年、名古屋市は堀川の水源の水質改善実験を実施することになりました。実験の内容は次の通りです。

- 1) 名城下水処理場凝集剤添加実験
- 2) 鍋屋上野浄水場作業水の導水 0.04 m<sup>3</sup>/s (猿投橋付近)
- 3) 浅層地下水の導水 0.01 m<sup>3</sup>/s (木津根橋付近)

この名古屋市の実験の効果を市民の視線で検証、評価しようと結成されたのが第2次調査隊ともいえる、「堀川 1000 人調査隊 2005」で、今回は地域限定の小規模な調査ながら108隊730名が参加しました。

### 2. 調査の結果について

参加した調査隊からは、10～12月に、のべ385件の調査報告が寄せられました。

その結果、場所によって程度の違いはあったものの、猿投橋～納屋橋までの間で、透視度の改善が確認されるなど、名古屋市の実験には堀川浄化への効果があったことが検証されました。

また市民と行政が連携し、インターネットなどを通じて緊密に情報を交換するという調査活動を通じて、市民のネットワークが強くなり、堀川浄化への意識が盛り上がるという効果もありました。

こうした成果をうけて、名古屋市では、平成18年度に木曾川からの導水実験に係る予算を計上され、また、汚濁負荷削減対策として、合流式下水道の改善施策の推進や、堀川開削400年に向けて名城下水処理場での恒久的な高度処理の検討など、さらなる「堀川浄化」に向けた取り組みが推進されていくこととなりました。

このように「堀川 1000 人調査隊 2005」は堀川浄化に向けて大きな足跡を残しました。

### 3. 今後の方向性について

第1次、第2次調査隊の活動を通じて、市民と行政が連携をとりながら、できることからひとつずつ解決に向かって努力していくということが堀川の浄化に非常に効果があるということが実証されました。

調査隊事務局としては、今後も第3次、第4次と調査隊活動を継続しつつ、幅広い市民のネットワークの構築や行政との連携活動を続けていくことが堀川浄化実現への確かな道であると思います。

皆さんの一層のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。